

会報

第 131 号

令和7年7月1日 発行
新潟県特別支援教育研究会
事務局：新潟市中央区白山南
1-207-3 新潟市立鏡川小学校
Tel 025 (265) 4111
Fax 025 (265) 4112



学びを深め

支援の輪を広げる

新潟県特別支援教育研究会

会長 後藤 和広

蒸し暑い日が増え、本格的な夏の訪れを肌で感じる時期となりました。会員の皆様におかれましては、各校や各地域で日々、児童生徒に温かく寄り添い、個々のニーズに応じた指導・支援をしてくださっていることに心より感謝申し上げます。

先日、今年度第1回目の理事会をオンラインで行い、令和6年度の事業の振り返りと、今後の取組などについて協議を行いました。昨年度は上・中・下越の3地区で研究大会が開催され、あわせて、会員の専門性を高めるために各研究部が計画・運営を行う研修の場も多く設けられました。これらの取組は、会員同士の横のつながりを育む貴重な機会となるとともに、会員一人一人の一層の力量向上に確実につながっていると感じます。

近年、義務教育段階における児童生徒数は減少傾向にある一方で、特別支援教育を必要とする児童生徒数は増え続けています。特に、特別支援学級に在籍する児童生徒や、通級による指導を受ける児童生徒の増加が顕著です。また、通常の学級に在籍しながら特別な支援を必要とする児童生徒数も年々増えており、全ての子どもたちが安心して学び、自分らしさを発揮できる環境づくりなど特別支援教育の充実、今後の学校づくりを考え

る上で重要な課題となっています。

本研究会では来月、8月1日に新潟テルサを会場に、新潟県特別支援教育研究大会新潟大会を開催します。大会主題は、「一人一人が輝きながら共に支え合い 未来を創る子どもたち ～ 共生社会の実現に向けて、私たちはどうつながり合い、子どもたちの成長をどう支えるか～」と設定しました。この大会は、令和8年10月に新潟県で20年ぶりに開催される、全日本特別支援教育研究連盟全国大会のプレ大会として位置付けています。今年度の県大会、そして来年度の全国大会開催に向け、本研究会の中に大会実行委員会を置き、新潟県教育委員会、新潟市教育委員会をはじめとする関係の皆様から多くのご支援をいただきながら、準備を進めてきているところです。

この2つの大会は、本県における特別支援教育の歩みを見つめ直し、私たちがこれまで子どもたちと真摯に向き合い、積み重ねてきた成果を広く発信する好機です。また、大会主題のもと、県内外から来られる多くの方々と語り合い、意見交換をする中で、今後の指導・支援の在り方などについて新しい視点を得ながら、学びを深めていく機会にもなるはずです。来年度の大会開催も見据え、本研究会の事業を進めていくことは、本県における特別支援教育の一層の充実だけでなく、学校教育全体の質的な向上にもつながっていくものであると確信しています。

まもなく県大会の日を迎えます。この大会が参加される皆様にとって、他校種や他地域の会員と新たにつながり、今後の特別支援教育の在り方について深く学び合う場となることを願っています。

～令和7年度の主な事業～

○理事会・評議員会

第1回理事会・評議員会

(Zoomによるオンライン開催を実施)

第2回理事会・評議員会

(1月にZoomによるオンライン開催を予定)

○研究大会

・新潟県特別支援教育研究大会

(全国大会プレ大会)

8月1日 新潟テルサ

*今年度は各地区大会を実施せず、全県開催

○研究部会

☐知的障害部

☐自閉症・情緒障害部

☐肢体不自由・病弱・身体虚弱部

☐言語・難聴部

☐視覚障害部

☐特別支援学校部

○全特連関係

・全国大会北海道大会

・関東甲信越地区大会茨城大会

○会報

・131号(7月)、132号(2月)

教職員すべてに求められる 特別支援教育の視点



県教育庁義務教育課
特別支援教育推進室
室長 南 誠

1 はじめに

本県の特別支援教育の推進に対し、会員の皆様より日々ご尽力いただいておりますことに心より感謝申し上げます。

適切な就学判断、特別支援学級・通級による指導の適切な運用に加え、以下の国の動向への理解を深め、一人一人が本県の特別支援教育を支える担い手として、皆様の熱意と専門性に裏付けされた取組を今後も継続していただきますようお願いします。

2 特別支援教育に係る国の動向

通常の学級に在籍する障害のある児童生徒への支援の在り方に関する検討会議

令和5年3月に上記会議の報告が取りまとめられました。

本報告は、近年の小・中・高等学校における特別支援教育を必要とする児童生徒の増加、令和4年9月の障害者権利委員会による対日審査の総括所見、同年12月に文部科学省が公表した「通常の学級に在籍する特別な教育的支援を必要とする児童生徒に関する調査結果（以下、調査A）」等を踏まえたものです。本報告では、障害のある子供と障害のない子供が可能な限り同じ場で学べる環境の整備を進め、インクルーシブな社会の実現に向けた施策の充実が重要とされています。また、障害のある児童生徒一人一人の教育的ニーズに応じた適切な指導や支援の提供が求められており、以下4点が重点的取組として示されています。

(1) 校内支援体制の充実

調査Aでは、小中学校における通常の学級の児童生徒の約8.8%が学習面又は行動面に著しい困難を示すとしています。そのため、校内委員会で支援が検討される割合との乖離を見直し、顕著な困難のある児童生徒だけでなく、潜在的ニーズのある児童生徒の存在に気付き、早期発見・早期対応の徹底が求められます。児童生徒の実態把握に注力し、個別の指導計画・個別の教育支援計画の作成、ICTの活用や合理的配慮の提供等を通じて、適切な指導・支援を確実に行っていただきますようお願いします。

また、上記諸計画を積極的に活用し、外部機関とも連携しながら専門的な助言を得て、切れ目のない一貫した支援体制の構築

に努めていただきますようお願いいたします。

(2) 通級による指導の充実

(3) 高等学校における通級による指導の充実

小・中学校の通級指導教室は、過去10年間で設置数が2.2倍、利用者数も1.96倍に増加しています。また、高等学校では、荒川・長岡明德・高田南城に加え、令和7年度から堀之内高等学校にも新設され、現在4校で実施されています。

一方、指導者不足により設置が進まないという課題もあります。

県教育委員会は、国の方針（児童生徒13人に1人の教員配置）に基づき、市町村と連携して設置と人材育成を進めておりますが、各校の校長先生方のご協力をいただきながら、将来を見据えて適切な人材を早期に見出し、県が実施する育成事業への参加を促すことが求められています。

自校に教室が設置されることで、保護者の送迎負担軽減、利用者の移動及び心理的負担軽減にもつながります。支援を必要とする子供たちのために、今できることを共に進めていただきますようお願いいたします。

(4) 特別支援学校の専門性を活かした取組

特別支援学校には、障害のある児童生徒への教育に関する専門的な知見と経験が蓄積されています。特に、自立活動に関する指導は、通常の学校では対応が難しいケースも多く、特別支援学校の果たす役割はますます重要となっています。通常の学校においては、こうした特別支援学校の専門性を積極的に活用することで、支援を必要とするすべての子供が適切な支援を受けられる体制づくりが可能となります。

指導者不足などの課題がある中でも、子供たちが取り残されることのないよう、学校間の連携や学び合いを通じて、誰一人取り残さない特別支援教育の実現に向けて取り組んでいただきますようお願いいたします。

3 求められる特別支援教育の視点

インクルーシブ教育の推進を軸に、「早期発見・早期対応」「各種計画の作成と活用」「通級による指導体制の整備」「専門性の活用」「関係機関との連携」等の視点を持ち、すべての子供たちに必要な支援が行き届く特別支援教育を実現していきましょう。

4 おわりに

障害のある子供も障害のない子供も共に学び、共に成長していくためには、皆様の日々の実践の継続と子供を取り巻くすべての関係機関との連携が必要です。特別支援教育のさらなる充実に向け、お一人お一人の取組に期待いたします。

令和7年度 県特支研 役員

※敬称略

会 長	後藤 和広(鏡淵小)			
副会長	梅澤 健一(南本町小)	熊倉 隆司(裏館小)	岡田 義則(新潟市立東特別支援)	
理事	小林 朋広(新井中央小)	岩田 正行(田尻小)	稲毛 真哉 (千手小)	
	前田 友晴(今町小)	田中 博徳(北辰小)	竹田 真実子(味方中)	
	小川 和宏(新津第一小)	江口 滋(万代長嶺小)	土田 亮 (女池小)	
	角 直浩(外ヶ輪小)	松岡 誠(さんぼく小)	中原 広司 (五泉小)	
	石塚 間継(真野中)	辺見 亘(県立はまなす特別支援)		
	月岡 秀也(見附特別支援)	倉上 明(県立西蒲高等特別支援)		
会計監査	小野 聡(青海小)	佐藤 昌弘(新町小)	樋口 憲哉 (水原小)	

令和7年度 県特支研 評議員

※敬称略

上越	長谷川 和彦 (吉川小)	柏崎・刈羽	鈴木 康幸 (日吉小)
	佐藤 則子 (三和中)		高橋 明大 (松浜中)
糸魚川	大瀬 孝志 (能生小)	妙高	三田村 尚子 (斐太北小)
長岡・三島	中島 喜美子 (栖吉小)	三条	池田 岳康 (長沢小)
	小林 和之 (大島中)		田村 和弘 (第一中)
燕・弥彦	坂内 克明 (燕西小)	加茂・南蒲	佐藤 智昭 (田上小)
見附	永井 智祐 (名木野小)	小千谷	高橋 豊 (小千谷市立総合支援)
十日町・中魚	中沢 功 (川治小)	魚沼	大関 みどり (広神西小)
南魚沼	角谷 文昭 (湯沢中)	新発田	磯部 裕之 (猿橋小)
北蒲	内山 谷寿夫 (蓮野小)	胎内	高橋 路子 (きのと小)
村上・岩船	櫻井 雅之 (関川中)	五泉	渡邊 正人 (五泉北中)
阿賀野	脇川 恭子 (堀越小)	東蒲原	阿部 順延 (津川小)
佐渡	小田 俊裕 (加茂小)	新潟市北区	川又 由香 (岡方第一小)
新潟市東区	藤田 滋 (江南小)	新潟市中央区	本間 浩之 (鳥屋野小)
新潟市江南区	貝沼 浩晃 (早通小)	新潟市秋葉区	山形 昭 (小合小)
新潟市南区	中川 日里 (小林小)	新潟市西区	佐久間 郁子 (山田小)
新潟市西蒲区	藤崎 直子 (升潟小)	新潟市中学校	遠藤 禎 (早通中)
新潟市中学校	中川 秀太 (横越中)	視覚障害	根谷 聡 (県立よつば学園)
聴覚障害	佐々木 裕一 (県立長岡聾)	病弱	関川 俊洋 (県立吉田特別支援)
肢体不自由	長谷川 修 (県立上越特別支援)	知的障害	大谷 誠 (新大附属特別支援)

県特支研のホームページをご覧ください。

県特支研の役員、事業、会報などの情報や特別支援学校へのリンクはこちらです。

地区大会や研究部研修会の情報はこちらから。

全特連関プロ大会等の様子を紹介します。全特連HPへリンクされています。その他、新潟県の特別支援教育に関する情報をお伝えします。

URL

<http://www.niigata-inet.or.jp/kentokusiken/>

E-mail

tokusi@niigata-inet.or.jp

新潟県特別支援教育研究会

- 重宝の整理
- 理事長
- 評議員
- 会の様子
- 地区大会
- 研究部
- 会報
- 会報紹介
- 会誌
- 推薦・推薦員
- 特別支援学校
- センター・約稿誌
- リンク先
- お問い合わせ
- 役員ページ



- お知らせ**
- ・ (24.04.24) 令和6年度第1回三級会費料をアップしました。
 - ・ (24.03.18) 会報No.128を刷新しました。
 - ・ (24.03.04) 会報No.128を刷新しました。
 - ・ (24.03.04) 聴覚障害・産後うつ等の研修を更新しました。
 - ・ (24.01.12) 佐渡地区の研修だよりを更新しました。
 - ・ (23.12.19) 新潟市立新町小学校高松校の両校地区大会(下校)の情報を更新しました。
 - ・ (23.12.14) HPをリニューアルしました。

令和7年度 各研究部の活動

自閉症・情緒障害部 事務局:長岡市立千手小学校

7月30日(水)13:30~16:00に、(株)RIDGE SPECIAL EDUCATION WORKS 代表で、園や学校、児童発達支援事業所等への発達支援コンサルティングを行っている小嶋 悠紀 様より、「発達障害・グレーゾーンの子どもが伸びる声かけ・接し方」と題してご講演をいただきます。

日々のかかわり方に悩みをもっている多くの支援者のために、子どもの発達段階や特性に合わせることを大切にしたいかかわり、子どもの力を引き出し、伸ばす声かけや接し方について、お話をいただきます。今回のご講演を研修や子育てに活用する等、多くの方の参加をお待ちしています。

知的障害部 事務局:新潟市立新津第一小学校

8月5日14:00~16:00に新潟市江南区文化会館において、言語聴覚士の長井 麻由美 様(こどもサポート教室「きらり」女池神明校)を講師にお迎えし、「ことばの困難さをかかえる子どもたちへのアプローチ～言語聴覚士の視点から～」という演題でご講演いただく予定です。

「発音に困難さを抱える子ども」だけでなく「『ことば』の理解が苦手な子ども」や「読み書きに抵抗のある子ども」について、言語聴覚士として、長年、児童・生徒の指導に携わってこられた講師先生から、具体的な指導方法をご示唆いただきます。多くのご参加をお待ちしております。

言語・難聴部 事務局:新潟市立万代長嶺小学校

7月31日に総会を実施後、筑波大学人間系教授、小渕 千絵 様より『「Lid/APD」の理解と支援について』というテーマで Zoom を用いてご講演をいただく予定です。

聴力に異常がないにもかかわらず、音声をことばとして聞き取ることが困難な「Lid/APD」の存在が注目されています。聴覚障害をご専門とする小渕 様よりお話を伺い、「Lid/APD」についての理解を深めるとともに、有効な支援方法についてご示唆いただき、これからの指導、支援に生かしていこうと考えております。

肢体不自由・病弱・身体虚弱部 事務局:見附市立今町小学校

肢体不自由・病弱・身体虚弱部では、隔年で実践リーフレット「えがお」の発行と講演会を開催しており、今年度は講演会の開催となっています。

今年度は、夏休み中に上越教育大学大学院教授の笠原 芳隆 様よりZoomによる講演を行っていただく計画を立てております。前回の講演で、一人一人の困難さを的確に把握し、ニーズに合わせて対応していくことが大切であることを学ばせていただきました。今回の講演を聞き、さらに今後の指導に生かせるように学ばせていただきたいと思います。

視覚障害部 事務局:新潟よつば学園

今年度も目や見え方に支援を要する児童生徒への配慮事項や支援の在り方について学んだり、情報共有をしたりする場として「目や見え方ネットワーク協議会」を5月と12月の2回開催予定です。例年、この会には県内の弱視特別支援学級担当者を中心に、目や見え方に配慮が必要なお子さんの担当者が参加します。また、7月29日の研修会では、弱視教育について宮城教育大学の永井 伸幸 様よりご講演いただく予定です。視覚障害教育について興味をお持ちの方は誰でも参加できますので、事務局にお問い合わせください。

県特支研だよりNo.131号をお届けいたします。ご多用の中、多くの皆様から玉稿を賜りました。感謝申し上げます。本号が特別支援教育の一助となることを願っております。(事務局)